

古河城百間堀は何間堀？

渡辺利明

古河城は西の渡良瀬川と東の沼に挟まれた微高地に築かれていたが、東の沼の北側が百間堀と呼ばれていた。慶長年間に松平康長によって観音寺曲輪が作られたが、百間堀はその時に東側を守る要害として、自然地形を利用して整備されたと思われる。本記事はこの百間堀について検討してみたい。

明治の廃城後に百間堀は水田となり、更に近年は埋め立て・宅地化が進み、現在では見る影も無くなっているが、注意深く探せば名残を見ることが出来る。(図1・図2) 観音寺曲輪と堀では約3mの高低差があり、崖線を形成している。(図2・図4の矢印位置)

百間堀と呼ばれている箇所には、城絵図によつて左記のように堀幅の書き込みがあるが、いずれも百間には遠く及ばない。

- 日本分国絵図 狭い箇所で42間、広い箇所で67間(図5)
- 正保城絵図 狭い箇所で45間、広い箇所で65間(図6)
- 内外惣絵図 狭い箇所で37間、広い箇所で64間(図7)

百間堀という呼称は広大な堀のイメージによるものか、または中世にもっと幅広だったかもしれない時期に名付けられたものと考えられる。

絵図による狭い箇所の堀幅に8間(約15m)もの差があり、誤差と呼ぶには大きすぎるのだが、この違いが何によるかは不明である。

内外惣絵図には屋敷地の間口・奥行の数値が記されているため、こ

れを利用して寸法の検証する。

観音寺曲輪内の中央付近の四方を道路に囲まれた箇所に、間口23間と27間の屋敷地が南北に並んでいる。ここは国土地理院地図で確認すると約92mあり、1.82m \parallel 1間のいわゆる田舎間で計算すると50間半となる。絵図の23間+27間 \parallel 50間に対し、誤差は十分に小さく、絵図の数値は正確と見てよい。

曲輪の百間堀側ではどうだろう。道路がクランクしている付近に奥行41間半と22間半の屋敷地がある。正確な比較対象とはなりえないが公図で同位置を確認すると、約71m(39間)と約42m(23間)を計る。また、公図で百間堀跡と推定される幅は約80m(44間)であり、絵図の数値と符合しているとは若干言い難い。公図を江戸時代の土地区分に当てはめるのは相当無理なのでこの結果は仕方ないが、公図の屋敷地東端境界線が現在の崖線と、ほぼ一致することは注目したい。

次に国土地理院で公開している航空写真で検討する。

昭和16年に撮影された写真(ORTOPAN)は、よく当時の状態を捉えており、今回は日本地図センターより購入したものを使用した。写真の百間堀付近を見て気づくのは、現在も残る崖線とその東側にほぼ平行に続く輪郭線が残っていることであり、これは公図でもほぼ同位置に境界線を確認できる。

輪郭線のほうは現在消滅しているが、内外惣絵図の墨線と相似形をしており、崖線のほうは明治時代の迅速測図の墨線形状に近い。輪郭線を基準として百間堀の最も狭い箇所の幅を計ると約70m(38間半)あり、同じく崖線を基準として計ると約86m(47間)ある。この計測値からみると、崖線は正保城絵図の数値に近く、輪郭線は内外惣絵図の数値に近いと言えるようだ。

以上の結果から考察する。

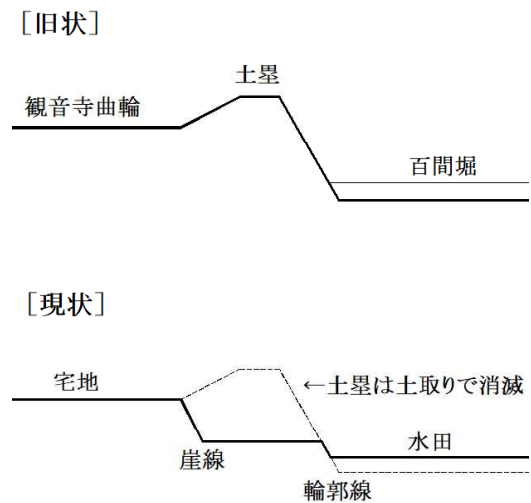
現在残る崖線は平面で見ると、途中に緩い凹凸が多くあるが直線状であり、タイコ状に張り出しておらず、これをそのまま観音寺曲輪外縁とするのはやや無理があると思える。明治初期に作成された迅速測図で見ても、すでに北半分は土塁が無く墨線は直線状で、相当の改変を受けているようである。(図8)

追手門跡東側には稻荷神社が祀られており、境内敷地の高まりは従来から観音寺曲輪土塁の北東コーナー部分と目されてきたが、この敷地は標高約20mで、同じく土塁上に位置する頼政神社敷地の標高約22mと比べてかなり低い。追手門の直近にある稻荷神社敷地のほうが低いというのは通常では考えづらく、本来の土塁はもっと高かった可能性があり、土塁のコーナーであったかどうかも疑問として残る。

航空写真に残る輪郭線は、形状や寸法数値が内外惣絵図に近いことから、土塁外縁跡の可能性は高い。但しこの場合、正保城絵図の数値と堀幅が大きく異なる事が問題となる。

結論として、崖線東側の輪郭線が観音寺曲輪墨線の可能性が高いが、残念ながら確定できず、百間堀の幅も特定出来なかった。トレンチ調査をすればある程度は解明すると思うが、現在では望むべくもない。しかし現状の表面観察の結果だけで判断するのは、大きな間違いが生ずることを理解して頂けたと思う。

百間堀西側推定断面図



古河城は本丸など中心部が失われたため、かすかに残る百間堀跡も貴重な残存遺構である。市にはぜひ文化財に指定し、未長く保存を計って頂き、出来たら景観を復元して欲しいと希望する。

参考資料

- 国立公文書館 正保城絵図「下総国古河城絵図」
- 国立公文書館 日本分国絵図「下総古河城図」
- 古河市 古河市史資料近世編(藩政)付録「古河城内外惣絵図」
- 古河市 古河城跡分布調査報告書Ⅰ
- 国土地理院 地図・航空写真
- 公図・迅速測図・グーグルマップ



図2 航空写真(Google 2017年)



図1 国土地理院地図(2017年)



図4 航空写真(1941年)

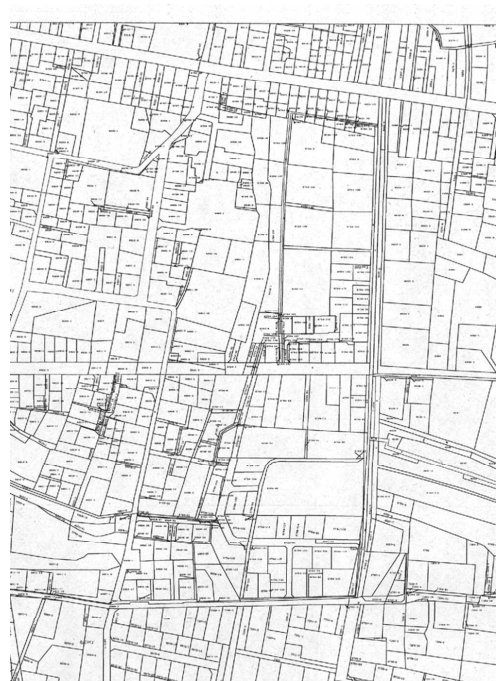


図3 公図

図5 日本分国絵図「下総古河城図」

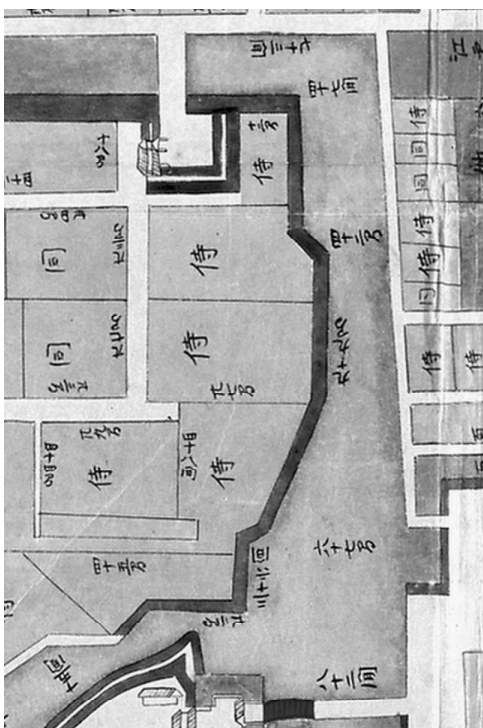


図6 正保城絵図「下総国古河城絵図」

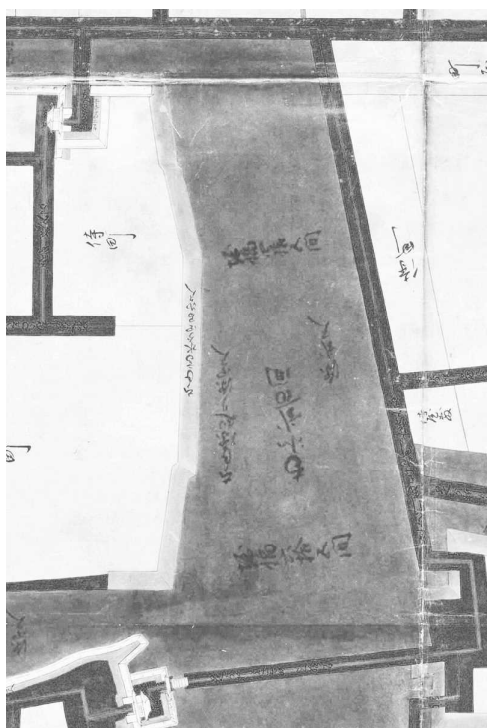


図7 「古河城内外惣絵図」

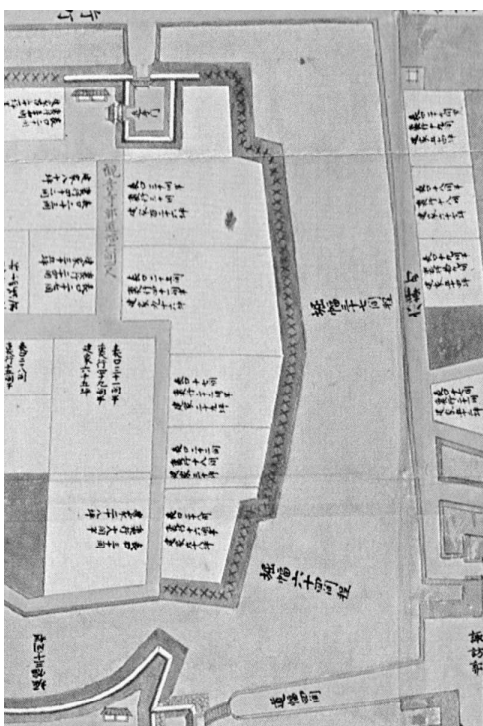


図8 迅速測図

